

自然の遊び場 「馬入水辺の楽校」づくり

1 社会資本の概要

相模川はその源を富士山(山中湖)に発し、山梨県内では「桂川」と呼ばれ、周囲の支川を合わせ、山梨県の東部を東に流れ、神奈川県に入ると「相模川」と名を変え、相模湾に注ぎます。一級河川で神奈川県中央部を貫く「母なる川」と呼ばれていますが、河口付近では「馬入川」と呼ばれています。また、相模川は多くのダム、堰を持ち、神奈川県民の約6割

の水道水を補う「利水」の川で、古くから鮎漁が盛んに行われていたことから「鮎川」としても知られています。一方で不法投棄も目立つようになりましたが、その件数は近年減ってきており、自然を楽しめる観光・レクリエーション拠点として、多くの人々が訪れています。



位置図



相模川河口

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

川の自然と触れあえる場づくりを図るため、行政との協働により、平成13年4月に馬入水辺の楽校を開校しました。ワンドやトンボ池を設置するなど、駐車場や不法投棄の場の自然環境を復元しました。合言葉は「子どもが元気、生きもの元気、地域が元気」。「相模川いい川づくり」「川の自然と触れ合える場

づくり」「自然体験・環境教育の推進」を3本柱に多様な活動を展開しています。目標は当地のフィールドミュージアム化。自然生態園としての機能を高めるため、市民参加で生物多様性保全活動や環境管理活動に取り組んでいます。「五感で感じる自然観察」など、工夫を凝らした環境学習活動が好評です。



不法投棄の場をエコアップ



みんなの力で生き物いっぱいの楽校づくり(とんぼ池づくり)



フィールドミュージアムづくり(案内板の設置)

特定非営利活動法人 暮らし・つながる森里川海 神奈川県 平塚市

3 活動の成果や波及効果等

草刈りなどの環境管理活動や生き物広場づくり、ウナギの棲む川づくり、カヤネズミの生息地保全活動などにより、生き物いっぱいの自然の楽校になりました。自然離れが進んでいる子どもたちを野に戻そうと、多様な環境学習活動を展開しています。活動の成果が実り、市民利用が増加し、学校利用も増えています。ライフジャケットの訓練を兼ねた川遊びには100人近くの市民が参加し、馬入川の自然の素晴らしさを体感しています。



ロープワーク講座

広がる原っぱと
生き物いっぱいの自然環境

草木染



隠れ家づくり



自然ガイド版



環境学習活動:川の自然楽校

喜びの声



受賞者

NPO法人暮らし・つながる森里川海
理事長
白井 勝之

コメント

今回の受賞を契機に運動の輪を地域へと広げて行きます。市民やNPO、企業、行政と連携し、「フィールドミュージアム馬入水辺の楽校」の設立を目指します。

活動の内容

- 自然環境の保護・保全活動
- 川の自然とふれあえる場づくり
- 子どもたちを主たる対象にした環境学習活動の実践
- 広報活動:HP、会報、活動報告書の発行など

活動の経歴

- 平成13年4月 馬入水辺の楽校の会設立(任意団体)
- 平成29年5月 特定非営利活動法人・暮らし・つながる森里川海に組織変更
- 令和3年 河川財団河川基金優秀成果賞(国土交通大臣賞)受賞
- 令和6年 第13回毎日地球未来賞(一般の部)大賞受賞
日本自然保護大賞(選考員特別賞)受賞

所在地

活動主体及び連絡先

対象となる社会資本

神奈川県平塚市中堂

特定非営利活動法人 暮らし・つながる森里川海
白井 勝之 usui-katsuyuki@nifty.com

一級河川 相模川(馬入水辺の楽校)
※管理者:平塚市・京浜河川事務所

